

# 超加工食品の高摂取で若年発症大腸がんリスク増加

このたび、超加工食品（UPF）の摂取と若年発症大腸がん（EOCRC）前駆病変の発症リスクを調査した結果が JAMA Oncol 誌に報告されました。

超加工食品の摂取量が最も多い群は、最も少ない群と比較して若年発症の大腸がん前駆病変（通常型腺腫）発症リスクが 1.45 倍と有意に高い結果でありました。

超加工食品（UPF）とは、複数の食材を工業的に配合・加工し、砂糖・塩分・脂肪・添加物（香料、乳化剤、保存料など）を多く含む食品のことで、スナック菓子、菓子パン、インスタント麺、ハム・ソーセージなどが代表的です。